

[007]附属環境工学研究教育センター研究活動報告

<https://doi.org/10.15017/7376538>

出版情報：附属環境工学研究教育センター研究活動報告. 7, 2025-07-25. Center for Research and Education of Environmental Technology, Faculty of Engineering, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



編集後記

本センター研究活動報告も、第7号を迎えることとなりました。新体制での研究活動が2年目を迎えた2025年度、各研究ユニットにおける挑戦的かつ実践的な取り組みが着実に結実しつつある様子を、本報告を通じてお伝えできれば幸いです。

昨年度2024年は、元日に発生した能登半島地震により、改めて我が国の自然災害リスクとエネルギー・環境の回復力（レジリエンス）の重要性が強く意識された年となりました。そして2025年に入り、世界は再び大きな転換点を迎えています。米国ではトランプ大統領の復帰に伴い、急進的な関税政策が打ち出され、世界貿易の流れが混乱し、国際経済やエネルギー市場にも不確実性が拡がりつつあります。環境・エネルギー問題は、もはや一国の課題ではなく、複雑に相互依存した地球規模の課題であることを実感する日々です。

また、研究・教育の現場では、近年のAI・LLMの急速な進展には驚きを隠せません。昨年までは“耳新しかった”これらの用語も、今年に入ってからはずでに日常の研究・教育実務に浸透し始めています。使いこなすべきツールとしての側面と、批判的に捉えるべき側面、その両面を認識しつつ、私たちは知の使い手であると同時に、知の創り手でもあるという原点に立ち返る必要があるのではないかと感じています。AIの活用によって業務や研究の効率が向上する一方で、教育現場における人と人との対話や、現場感覚を伴った知の形成の価値も、あらためて見直されつつあります。

このように、変化と不安定さが増す時代において、附属環境工学研究教育センターが果たすべき使命はますます大きく、かつ意義深いものになっていると感じています。本報告が、センターの1年の歩みを振り返るとともに、読者の皆様にとっても、次なる展望へのヒントや刺激となれば幸いです。

最後になりましたが、ご多忙の中、本報告書の作成・編集にご協力いただいたすべての関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

(劉 維 記)